

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	(有) 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町1 2－5 2
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切にし、職員の都合に合わせた制約はなく、入居者さんがゆったりと笑顔で過ごせるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●法人代表者は地区の老人会の会長もされながら地域の方達とかかわりを持ち、信頼関係を深めてきておられる。自治会館で地域の方達がカラオケや輪投げ等のゲームを楽しむ時には、利用者も数名参加されている。お手玉や三味線を披露してくれるボランティアの方等も来てくださっている。
●事業所では「一般家庭のような食事」作りに努力されており、酢の物・焼き魚・お味噌汁等利用者に「馴染みのある」「見てわかりやすい」食事の内容にされている。調査訪問時、お魚をほぐして出されている方もあった。お肉の好きな利用者も多くいるようで、昼食か夕食には、お肉を使った料理が食べられるようにされている。食事の好み等も職員が把握して、カレーがお嫌いな方には肉じゃがにされる等、個々に合わせておられる。利用者は豆の筋とりをされたり、下膳や洗いをされる方もある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 和 (なごみ)

記入者(管理者)

氏 名 山内キシエ

評価完了日 平成22年 6月 25日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			理念は自分達で話し合い作った。地域との関わりを大切に心がけ、ケアで迷ったときは職員間で理念を確認している。	
			(外部評価)	
			事業所は「私達は地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」と理念を掲げて、法人代表者は地区の老人会の会長もされながら地域の方達とかかわりを持ち、信頼関係を深めてきておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			自治会に加入し老人会や保育園などの地域の催しに参加している。地域の方が入居されたこともあり近所の方が様子を見に来てくれている。	
			(外部評価)	
			近所の方が野菜をおすそわけしてくださったり、自治会館で地域の方達がカラオケや輪投げ等のゲームを楽しむ時には、利用者も数名参加されている。お手玉や三味線を披露してくれるボランティアの方等も来てくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			地域の方との日常の話しの中で介護の相談に応じている。看護学生の実習を受け入れ認知症介護を実習してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			地域の方の参加が多く、入居者さん主体の意見をもらっている。また、地域の方から支援をいただくきっかけとなる会となっている。	
			(外部評価)	
			事業所は、会議を「地域との関係を深めることができるような会議にしたい」と考えておられ、民生委員の方等、複数の地域の方に参加をいただき会議をすすめておられる。会議では、利用者の状況や行事等活動の報告や職員が受講した研修の報告もされている。ボランティアで来てくださる方からは「利用者とかかわる際に気を付けること」等への質問もあり、管理者は、利用者の状況等も合わせて説明をされた。	さらに、会議を貴事業所のサービスの質の向上に活かしていくために、ご家族等、サービスを利用する方達にも出席いただけるよう働きかけていかれてほしい。又、関心を持ってもらえるような議題の工夫や地域のいろいろな立場の方にも出席いただき、事業所の取り組み等をさらに知っていただきながらご意見をうかがってみてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			何かあったときに連絡、相談している。運営推進会議に参加してもらってホームの状況を報告している。	
			(外部評価)	
			運営推進会議に出席いただける時には、事業所の取り組みについて「頑張ってくださいね」と励ましの言葉をいただくこともある。市からの依頼もあり、法人代表者を中心にして、他地区の老人会の設立や地域の高齢者の見守りをすすめるネットワーク作りの活動等にも協力をされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			入居時に、玄関に鍵をかけていないことを家族に説明している。見守りを心がけることで拘束しないケアを実践している。	
			(外部評価)	
			外部研修で学んだり、内部研修では「どのような言葉が拘束になるか」ということについても勉強をされた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで日頃のケアを話し合い、言葉使いにも注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要時、家族に制度の説明、情報提供をしている。職員にも勉強会、ミーティングで説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に利用料金や入院時、重度化したときの対応などを含め説明し疑問点がないか確認している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族来所時には必ず声をかけ、日常の様子を伝えたり当日の本人との話などを聞いている。入居時には苦情相談窓口の説明をしている。 (外部評価) 事業所の夏祭り際には、ご家族も来られて、利用者と一緒にお祭りを楽しまれている。季節ごとに発行する「おくじま新聞」は、行事や誕生日の写真も多く載せて、ご家族、地域、他グループホームに届けておられる。又、ご家族には、毎月の書類とともに、ご本人の生活の様子や体調、エピソード等を書いたお手紙と写真を同封されている。	 ご家族が事業所の行事に参加するような機会を増やしたり、ご家族が集まるような機会を作ってみてはどうだろうか。ご家族にさらに事業所のことを知ってもらい、具体的なご意見をうかがえるような機会を作っていかれてほしい。たとえば、利用者の日中の過ごし方へのご意見や職員の利用者への対応、事業所からの報告についての要望等、具体的にご意見をうかがえるよう工夫されてみてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			代表者は毎日、職員、入居者と夕食を共にしている。月1回のミーティングの内容を担当の職員が報告している。	
			(外部評価)	
		職員は、法人代表者や管理者に、気付いたことをその都度、相談されており、手すりの設置や事業所専用の車の購入等も提案して実現された。職員全員で話し合い事業所の理念に沿って全体目標に「きめ細やかなケア」「言葉遣いに気を付ける」「お互いに声を掛け合いながらケアしましょう」と決めておられ、ミーティング時等に共有しながら取り組みをすすめておられる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格手当が明確にしてあり、資格取得出来るよう勤務調整をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			毎月勉強会を開いている。外部の研修にも参加しミーティングで報告している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			愛媛県グループホーム連絡協議会の研修に参加している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			家族から生活の様子を聞くとともに、事前に本人とも面談し話を聞いている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までの生活や困っていること、ホームへの要望な どをよく聞いて話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いに添えるよう他のサービス機関や担 当のケアマネとも連絡をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日々の生活の中で一緒にすることを心がけお互いに感 謝し合う気持ちで接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃の生活の様子を伝え、不安なときは時間を作って 来てもらったり電話で話したりして協力してもらっ ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 自宅に外泊したり近所の兄弟の家に外出したりしなが ら生活している。友人や親戚の方の訪問もあり同じ時 間を共有できるようにしている。 (外部評価) 実家の近くにドライブに行かれたり、一人暮らしをさ れていたご自宅に戻ってみられたこともある。近所 の方とおしゃべりして懐かしい時間を過ごされた。後 日、ご本人を訪ねて来てくださった方もあった。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員を交え一緒に外出したり家事をしたりしている。利用者同士で相談しあっていることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時は他の事業所と連絡を取り、これまでの生活が継続できるよう支援している。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の話の中から一人ひとりの思いを汲み取ったり家族からも話を聞き本人の意向を大切にしている。 (外部評価) 職員は、利用者との日々のかかわりの中から利用者個々の好き嫌いや大切にしていること「家に帰りたい」という意向等を知り得ておられる。	 現在、利用者は重度化傾向にあり、事業所は、個々の思いや意向の把握にむずかしさを感じておられる。事業所では全体目標に「きめ細やかなケア」を掲げておられ、又、管理者は「利用者個々に個別の対応が必要」と話しておられた。日々の中で発信される利用者個々の思いや意向を蓄積して介護計画に採り入れ、よりご本人らしい暮らしの支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や担当のケアマネから生活歴やサービスの利用状況を聞いている。入居後も生活歴や好みの把握に努め情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースや出来る事などの把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者主体の介護計画を心がけ具体的な達成できる目標を掲げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			外部研修で習ったプランの立て方を試しておられた。ご本人の「夢」や「やりたいこと」を揚げたプランの作成に努力されており、ご本人の課題を一つに絞り、3か月で達成できそうなことを目標に挙げるようにされている。利用者も職員も楽しみながら行えるような支援内容になるように気を付けて計画を立てておられる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じ買い物に外出したり、デイサービスの演奏会に参加したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			民生委員さんや地域の方に運営推進会議の委員になってもらっており支援してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			入居までの主治医に診てもらっており、受診時日頃の 状況を情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			看護師が常勤しており常に相談しながら健康管理して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は介護要約を病院に情報提供し医療連携室とも 連絡を取り合い相談している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入居時に重度化、終末期への取り組み方を説明し、重 度化が予想される場合早めに家族、主治医と相談し要 望を聞くようにしている。	
33	12		(外部評価)	
			利用者の状態変化時には、医師とご家族が話し合い、 医師が事業所での生活が可能と判断した場合は、事業 所でできることを説明して支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急車の依頼や応急処置マニュアルを作成し日頃から勉強会や訓練をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し年2回夜間想定も含め利用者と共に実施している。避難訓練後、職員間で話し合いをしている。地域の方にも協力を依頼している。 (外部評価) 消防署の方の協力を得て、避難訓練を行われた。又、訓練を行った後には、ミーティングで感想等を出し合い、さらに注意の必要なことについても検討をされている。事業所は建物の2階部分に位置しているため、火災発生時にはベランダに避難するようになっている。地域の方は、いざという時にはホームの中で利用者の避難誘導を職員と一緒にしてくれることになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの思いを大切に、その人らしく過ごせるよう日々こころがけている。声かけの仕方や日頃の言葉使いに注意している。 (外部評価) 職員は、視力の弱い利用者、食事の内容を案内したり、食器を寄せたりしてご自分の力を使って食べられるように支援されていた。管理者は、職員の言葉遣い等、気になるような場面がある時は、タイミングをみてアドバイスするようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声かけをし、自分で決められるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、時間の制約はなく自分のペースで過ごしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みの服装をしており、お化粧品やアクセサリーをつけおしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好調査をし、献立を工夫している。一人ひとりの出来ること、興味のあることに合わせ食事の下ごしらえや片付け、おやつの買い物などを一緒にしている。 (外部評価) 事業所では「一般家庭のような食事」作りに努力されており、酢の物・焼き魚・お味噌汁等利用者に「馴染みのある」「見てわかりやすい」食事の内容にされている。調査訪問時、お魚をほぐして出されている方もあった。お肉の好きな利用者も多くいるようで、昼食か夕食には、お肉を使った料理が食べられるようにされている。食事の好み等も職員が把握して、カレーがお嫌いな方には肉じゃがにされる等、個々に合わせておられる。利用者は豆の筋とりをされたり、下膳や洗い物をされる方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、食事量を確認し健康に留意している。食事、水分摂取の少ないときは本人の嗜好に合わせた食品にしたり、食器を変えたりして工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後一人ひとりに応じた歯磨きをしている。嫌がるときには無理強いせず時間をおいて声かけしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			一人ひとりの排泄状況に合わせさりげなくトイレに誘導している。画一的に紙パンツを使用することなく状況に合わせ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			排泄の状況に合わせて、職員がトイレに誘導されたり、ご自分でトイレに行かれる方も複数おられる。入居前はポータブルトイレを使用されていた方が入居後、トイレまで行かれるようになった方もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			本人の希望を聞きながら入浴している。洗う順番、お湯加減など一人ひとりに合わせて入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			一般家庭のような浴槽で、毎日お風呂を沸かして準備をされている。車いすを使用されていない利用者は、希望を聞きながら入浴を支援され、毎日入る方もある。	
46			(自己評価)	
			その人のペースで過ごしてもらっている。昼夜逆転のないよう日中活動してもらったり、夜間の不安について職員間でよく話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全ての職員が薬の内容を把握出来るよう一覧表にしている。薬についての勉強会をし、薬変更時は日誌に記録し情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯や掃除、花の水やりなどその人が得意であったり好きなことを職員と一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くの図書館やスーパーなどに外出している。歩行の不安定な方は車椅子を使って散歩を楽しんでいる。ご家族の方との外出を楽しみにしている方もいる。 (外部評価) 天候や体調等をみながらその日のスケジュールを決めておられ、散歩や季節の花を見に出かけたり、地域の行事等にも参加されている。お誕生日の日に、ご本人の希望で職員とともにオムライスを食べに出かけた方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時にお金の所持の希望を家族、本人と相談している。ご自分で持っていたり、お小遣いを預かっている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時に電話を掛けている。手紙を書かれたときは封筒の宛名だけを職員が書くなどして支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			置物や花などで季節が感じられるように配慮し家庭的な雰囲気作りをしている。室温や換気に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			共用空間はきれいに掃除されており、折り紙等で作ったカエルとあじさいや太鼓台のポスターが壁に飾られていた。ソファで新聞を読まれていたり、居間の一角には畳のスペースがあり、利用者が腰をかけて洗濯物を畳んでおられる様子がうかがえた。職員のアイデアでベランダにはプランターでお花を育てておられた。	職員は、共用空間の環境について「家だったら・自分が利用するのだったら」と考え、空間作りについて、いろいろなアイデアを持っておられる。さらに、利用者が長時間過ごす居間等の環境作りについて「利用者個々の居心地の良さ」という点から全職員で工夫できる点はないか話し合われてみてほしい。又、利用者の活動意欲を触発するような環境作りについてもアイデアを出し合ってみてはどうだろうか。
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			入居時にタンス、衣類、食器など今までの馴染みの物を持って来てもらうようお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			掃除機をかける等、職員と一緒に掃除をされる方もある。仏壇を持ち込んでおられる方は、ご家族の写真も置いて、時折、以前の懐かしいお話を聞かせてくださるようである。ご家族が、ご本人のお好きな明るい色の可愛い小物を数多く飾ってくださっているお部屋も見られた。ご家族が来られた際に座る椅子を置いておられる方もあった。	